

子供らしさと環境

波多野勤子

「この頃の子供はりかうでござてもかなはない」といふ言葉をよくきゝます。實際子供はなかなかよく理窟をいひ、又物知りでもあります。けれどもそれがあまり理窟つぽく、子供らしいところが少なくなつて來てはゐないでせうか、十年、十五年前の子供は、いまのやうに物知りではなかつたけれど、もつと空想的な、創造的な心をもつてゐたやうに思ひます。一體さうして子供達がさう變つて來たのでせうか。それには勿論いろいろの原因がありませうが、何よりも強い影響を持つてゐるものは御母様の「教育熱心」だらうと思ひます。教育に熱心なのはまことに結構なことでありますけれど、熱心なあまり、子供を實力以上に、いつも背のびをさせる傾向があります。全甲は無理なものに、何とか努力さして全甲をせらせ、中等學校も、無理にでも府立官立をのぞみます。私立には又私立のいゝところがあるもので、女の子なぎ、以前は、府立のコチコチ、なぎさいつて、却つて私立のよさを親が認めてゐましたし、又従つ

て特に智的にすぐれてゐない子供は、その子供なりにいゝ私立を選んだものでした。ところがこの頃は中學校の傾向が女學校へも及んで來て、きんな苦勞しても官立、府立へ入れたい、さういふ御母様方が大部分になつてしまひました。今度の新制度で、いままでよりは一流どころをねらふ方々も少なくなつてきましたが、しかしそれとて、以前のやうに、子供の能力に應じて、満足して二流どころを受けるさか、私立のよさを認めてゐる方は非常に少なく、仕方なしにさうなつた方が多いやうでした。この子供を背のびさせる氣持がだん／＼小さい御子さんの方へも及んで來て、小さい中から、兎角智的につめこまうさすることが多いのではないでせうか。そしてそのために、子供たちは小りかうになり子供らしさがなくなり、理窟つぽくなつて來たのではないでせうか。

幼稚園へ上る前後から、子供が質問をやたらにし、何でも聞いてみないではゐられないのは皆様御承知の通りで、私共にまつては何の意味もないことでも、子供は、そこに

意味を考へ、ふしぎに思つては質問するであります。その中には全く答へやうもないものもあります。たゞへば私共の今度幼稚園へ上りました男の子が、何かの話のついでに、「オカアサマ、オヒカハセンセイハアンナニイセンセイナノニ、ドウシテ、バツテンテ、アンナニオモラヒニナツタノデセウ。」としきりに心配してゐましたので、何のこゝかと思つてゐましたら先生の御召物の模様がばつてんなのでした。兄とあそんで×のわるいこゝを知つてゐた子供は、さうして、入園査査の時に胸の紙に○をつけていたのだいたこの子にまつては、着物の模様も不成績の×に見えたのでせう。でもかういふ質問ですと親も笑つてすますこゝが多く、説明することも少ないのですが、「雨ハドウシテフルノ」「雷ハドウシテナルノ」なごゝいふ自然現象に關する質問や「自動車ハドウシテ走ルノ」「ラヂオハドウシテキコエルノデセウ」なごゝいふ器械に關する質問になつて來るご、兎角むづかしく教へこむ傾向がありはしないでせうか。子供たちはいろ／＼質問しますが、必ずしもむづかしい説明を要求してゐるものではありません。さうして又自分であゝじやないか、かうじやないかといふ、子供は子供に應じた考へを持つてゐるのですから、子供が質問をした時には、こちらですぐに説明をしてやるこゝはさけ、なるべく子供自身にその質問をかへして、子供に解釋させるのが

よいのではないでせうか。子供に質問をされた時、「さあ、さうしてでせうかね」といつて、子供に考へる餘地をあたへるご、子供はなかなかうまい解釋をします。それはもうおなかを抱へるほごをかしたな解釋をしてゐるこゝもあるし、又大人がハツミするやうな、反省させられるやうなこゝをいふこゝもあります。しかし、子供に大人の側から何もかも説明してやるより、さんなに子供の生活を子供らしくたのしくするこゝでせう。子供自身説明が出來なくて、さうしてもきゝたいやうな時にはその場で満足するだけのこゝを答へてやればいゝでせう。幼稚園の先生方はたいていそれを心得てゐられるやうですが、あまり歴史のない幼稚園や、特殊小學校入學指導を看板にしてゐる幼稚園には、時々あまりに理窟を、説明を、教へこんでいらつしやる方もあるやうに思ひます。又それを母親が、さも子供が、りかうにでもなつたかのやうに喜んでゐるのですから、子供達のスケールが年一年ご、小さくなつて、小さい大人が早く出來上つてしまふのも無理ありません。五歳の子供は五歳の子供として育て、七歳の子供は七歳の子供として取り扱ひたいものです。まして智能が特別にすぐれてもゐないのに、いろんなこゝを教へこんでしまつたら、その子は自分で伸びる力を失つてしまふでせう。

説明する態度で、子供に接してゐるご、子供は又研究心

を失ひ、したがつて何かする態度に熱心が少なくなりま
す。説明をしてやる態度は、つまり、子供に依頼心を起さ
して來るので、ちよつとしたことをやるのにも、出來な
かつたら、大人にやつてもらふ、さういふ考へがいつも動いて
ゐて、心を打ちこんで、ものをやるべきが少なくなりま
す。又研究心が少なくなることはいふまでもないでせう。
都會の子供が、物知りでありながら、工夫が案外出來な
かつたり、根氣がつかないのも、(勿論他にいろいろ)原因
が考へられますが、この親や又は周圍の者の説明してやる
態度でのぞんでゐるさういふことが大きな原因となつてゐ
ませう。田舎では御母さんは忙がしくもありますし、又のん
きでもあります。幼稚園があつても、托兒所風のもので、
教へこむやうなことはすつと少なくなります。それが却
つて子供に「あはせ」になつてゐませう。

二

子供は子供らしく育てたいものです。しかしこゝで子供
らしく、さういふ意味は子供をなるべくいつまでも幼稚のま
まで置く、さういふのを理想にするさういふのでは勿論ありま
せん。よく五六歳の子供のかはいゝのをみて、此の儘育た
なければならぬにせう、なごさいはれる方がありま
すがいくらかはいゝからさういつてそのまゝでいつまでも
られたら大變です。五歳の子供が五歳の子供相當にふるま

ふからかはいゝのであつて、それと同じことを十五歳の人
がやつたら、かはいゝどころではありません、まして兵隊
検査になつた人が、みたところ幼稚園の御子さんと同じだ
つたら、氣味悪くさへもなりません。子供らしく、しかも
あくまで正しい發達を遂げなければなりません。つまり自
分の力で伸びるのです。周圍の者は、その伸びる力を阻害
しないやうに努め、一方それが正しい發達をさげるために
よい環境をつくつてやるのです。よい環境さういふのは、子
供の生活内容を豊富にするやうにつとめてやるのです。さ
うしてたいして危険のないことなら何でもやらせておきま
す。これは大人の立場からいひますと、手間ひまのかゝる
ことでもあり、又不經濟の場合が少なくありませんが、子
供のためには何よりもいゝ育て方でせう。子供はいくら、
はたで言はれても、自分で心からさう感じない中は、なか
なか大人のいふことをきかないものです。いふことをきか
せようと思つて「ヤイヤイ」いふと、よけいに悪い結果をもた
らします、けれども反對に、自分で経験したことに關して
は、かなりはつきり行動します。一例をあげますと、私
共の長男は、いくら言つても、決して翌日の仕度をしてね
ないのです。さうしては、朝になつて鉛筆をけつたり、
カラーをさりかへたり大さはぎです。まだ二二年の時仕
方がないに仰言る方があるかも知れませんが、これもこれ

も皆自分で出来ることなのに、たゞさうしても、前以つて
そろへるこゝが出来ないのでした。こゝろが二年生の或
時、丁度お休みが二日つゞいた翌日のこゝです、學校へ行
かうとするのに、ズボンがぎうしてもみつかりません。上
衣を着、ランドセルを背負つて、下だけ下パンツのまゝあ
つちこつちズボンを探してゐます、その中店頭時間が来て
友達がさそひに來ました、代りのズボンはまだ洗濯やから
かへつてきてゐません。制服があるので他のをはいて行く
わけにもいきません。店頭彼は泣き出してしまひました。
家中大さはぎの末ズボンは思ひがけなく弟のタンスのしか
もねまきの間から出て來ました。二三日前に田舎から來た
女中が入れたものらしいのです。幸朝禮にも遅刻しなかつ
たらしいのですが、それでもこれで餘程こりたさ見え、そ
の後は、さんなにおそくなつた時でも、さんなに疲れてゐ
ても、洋服と學校道具をそろへない中はねないやうになり
ました。かういふやうな躰の場合ばかりでなく、知識を興
へる場合でも、同様でせう。花を育て、犬を飼ふにも、子
供自身のお仕事をその中へ割りふつておくさ、子供は自分
で知識を得ます。それは教はつてたゞ知つてゐるのとは違
ひ、ほんまうにその子供の知識さなりませう。さうして同
じものを見、同じ經驗をしても、五歳の子は五歳の子だけ
の、又七歳の子供は七歳だけのものをそこから採り入れる

でせう、そこに教へこみさまるで異つた効果があらはれま
す。
たゞへばお花を育てたさしませう。小さい子供はたゞ毎
日お水をやる、その御仕事だけで充分満足しませう。たゞ
へそのお花の成長がおくれても或は又、時には枯れさうに
なつても「水をやつてかはいがる、」その自分の氣持に満足
してゐませう、少し大きくなるさ、芽の出方、花のひらき
方にも關心を持つやうになります。同じやうにお水をやる
にしても五六歳になれば、お花が今日はさうなつてゐる
か、さいふこゝを心配します。六七歳になるさ、たゞお花
をながめてゐるばかりでなく、お花の中をのぞいたり、蝶
々がさうしてさまるか、なごさ不思議がるやうになりませ
う、畫をかいても下手な繪の中にも雌しべ雄しべがかゝれ
たりするのもこの頃です。このやうに子供が自分の生活の
中で、自分から起した疑問に發して勉強して行く時は、そ
れはほんたうの勉強です。このやうにして得た知識は、さ
こまでも擴がる、發展性を持つてゐます。そこに教へこみ
さまるで異つたたつさがあるのです。發明さか發見さか
いふものは、必らずこの様に、眞底からの知識を根底さし
てなされて來たさいふこゝは、今まで多くの人々の研究や
調査で明らかです。子供を子供らしくのびく、さ育てま
せう。